

堤学長に帰国報告

もやいすとグローバル育成プログラムの一環である「グローバル実践活動」として、2024年8月22日から9月20日の30日間、カンボジア・プノンペンでインターンシップを行った総合管理学部総合管理学科3年生の植木綾香さんと、文学部英語英米文学科3年生の前田さつきさんが、10月1日に堤学長に帰国報告を行いました。

植木さんは現地の美容サロンで、主にスタッフ育成マニュアルの作成や日本式おもてなしの指導を担当し、組織運営や人材育成の重要性を学びました。将来、ホテル業界でのキャリアを志す彼女は、海外のお客様をお迎えする際、日本の常識にとらわれず、多様な価値観を尊重したおもてなしを提供したいと語りました。

前田さんは、ゴム製品の製造・販売を行う企業にて、営業同行や外部との打ち合わせを通じて、実際のB to Bビジネスを体験しました。また、日英の契約書や議事録の確認業務を通じて、コミュニケーションの重要性や文書化の大切さを再認識。さらに、スタッフに日本語を教える機会を持ちながら、カンボジアの文化や言葉についても多く学び、現地での生活を幅広く体験できたと報告しました。

堤学長は「若いうちにさまざまな国や文化に触れ、カルチャーショックを乗り越える経験は非常に貴重です。今後も積極的に世界に挑戦してほしい」と激励。また、インターン受け入れ企業をはじめ、現地のJICAなどからの支援があったことで、このインターンシップが非常に有意義なものになったとし、11月に予定されている学内報告会を楽しみにしている、と笑顔で話されました。



堤学長（中央）とともにカンボジアを指さす植木綾香さん（左）と前田さつきさん（右）